

言語分析未来予測

未来は  
予測で  
きる

上石高生

未来予測のルールと、実際の政治家や  
芸能人の分析、検証したものである。

## はじめに

---

4、5年前にネットで気付いたことである。

ある哲学者（大学教授）のブログが、「自分の書いた本が売れない」と嘆いていた。その経歴はフランスの大学に4年というものだった。講師をしていたのかどうかは書いてはいなかったが、それでもたいしたお方であると思った。

私は、哲学者とはもっと崇高な志がある、と思っていたが、実はお金がほしい、ということで庶民と大差はなかった。しかし誰だってお金は欲しいものだ。実名を隠していた分、正直に書いたのだろう。

そこである助言をした。

「人のためになればお金は儲かります。占い師だって当たりもしない運命鑑定で儲けているぐらいです。現在、占いは5兆円産業（当時）だそうです。

人類の命題に答えてきた哲学を研究しているあなただったら、凡人の悩みなどわけもなく分析し解決できるでしょう。哲学者の権威が、占い師に取って代わったとしても、誰も不思議には思いませんし、何の文句もないでしょう。あなたはそれを書くだけで大金持ちなのですよ」

人類の命題に答えてきた哲学を研究している大学教授が、凡人の悩みなど分けなく分析できるはずだ。誰しもがそう思うだろう。その大学教授も実際、ブログのテーマを「人間関係」に変更して書いていた。しかしそれは1年も続かなかつたし、完結もしなかつたし、そればかりかブログは閉鎖されてしまった。

本が売れてお金を儲けたいという動機がありながら、哲学者にして凡人の悩みが分析できない？

それはなぜか？

専門家が、その専門性に依存している、ということだ。

専門用語（一般的な言葉でない）では、論理的に正しさを証明されていると思っていたし、そんな正しさに自信を持っていた。だがしかし、現実を対象に考えてみると、それが通用しない、ということを哲学者は知ったのだ。

専門家の文章とは、その専門性に依存しているときは、それなりに体を成してはいるが、大衆に向けて誰にでも分かりやすいように、一般的な言葉・標準語で書いたとき、その欠点に自分自身が気付くことになる。一般の人たちでも気付くはずだ、と専門家の内心はそんな脅えでいっぱいだ。

ここでは難解な専門用語も、複雑な論理も、統計分析も、関数も出てきません。

ここでは、「予測したことが未来で当たれば、それは正しい分析である」などの単純な未来予

測のルールを説明しております。

## 言葉の分析とは何か

---

これは私個人の研究であり、大学などでの言語分析とは関係がない。

始めたのは分析哲学の本も珍しい頃だった。

我々がすでに知っている言葉とは、国語科からの知識や辞書からのものであるが、言葉には別の側面がある。

言葉は人が発した瞬間から、性格を表わし、願いや意志、考えや方向性を持っている。

そして人は考えて行動するものだ。何も考えてなかった、と言っても無意識に考えている。そんな無意識にも言動は影響される。考えがその人の言葉や行動に表われるのである。

たとえば、あなたと他者との関係は、あなたが語る言葉に表れている。

あなたが彼氏の好きなところを語るとき、二人の良い関係が明らかになる。

逆に、彼氏の浮気を疑えば、二人の関係が不安定であることが分かるのである。

その言葉で関係が表わされるので、占いのように相手の生年月日や血液型を調べる手間もない。

このように人が語る現在と過去の出来事の情報进行分析することで、様々な問題点や、可能性を見つけることができるのである。

そんな言葉は突然できたわけではない。数千年の人の営みから生まれてきたのが言葉である。

数千年の人の営みが、人類を進歩させてきた。

人類の進歩があるからこそ、新しい言葉が生まれるのだ。

たとえば、コンピューターという名詞は、PC:パーソナル・コンピューターへと発展し、インターネットへと展開していった。具体的な発明品と言葉は、一体となって未来に発展し、展開して行くのだ。

言葉は人の創造と共に未来という方向性が備わっている。それゆえに、言葉の分析は未来予測的なものとなるのである。

ここで言う未来とは、“人の”未来であり、予測である。

人を分析することで、その未来を予測するのだ。

たとえば、経済とは漠然とした経済現象が存在しているわけではなく、人の欲望と意志や考え、その結果としての活動の反映そのものなのである。

政治も集団での政党政治というよりは、小泉政権からの「官邸主導」という言葉のごとく、意外かもしれないが首相の性質や意志が強く表れるようになったのである。もちろん、秘書や側近議員、様々なブレーンに、閣僚の進言もあるだろうが、それら全ての影響も、まとめて首相の言葉となって、それも個性的に発せられるのである。

よくテレビでは、科学が未来のように語られるが、それは過去や現実との比較で分かりやすくその発展を説明できるからに他ならない。

ただ漠然とした科学現象があるわけではなく、学問を追究しようとする人の願いや意志、考えが研究を繰り返すという方向性を持った結果、人が新しい発明を完成させるのである。

そんな影響から、全体が新時代に対応しようとするため、言葉も新しく生まれるのである。科学の発展と同時に新しい言葉も生まれることで、多くが未来という方向を意識するようになるのだ。

言葉はどれもそうやって生まれてきたものであり、全ての言葉は未来という方向性を持っている。

だから、言葉を分析することはひじょうに予測的な思考である、ということだ。

言葉には未来という指向性がある。

人類の進歩が新しい言葉を生む→言葉は未来という方向性を持っている→言葉の分析は予測的である。

言葉の分析のすばらしさは、言葉で表わされるものの全てを分析できることだ。もちろん、情報が少なければ、分析はより漠然としたものになってしまうし、正しい情報＝事実や、客観的なものでなかったら、分析も正しくはなく、予測的な文章にはならない。

しかし、ある程度の正しい情報＝事実や、客観的な情報があれば、かなり確度のある予測ができるのだ。

ただし、言葉の外に行ってしまった人は、もはや分析できない。

だが、おおむね人は言葉の外には出られない。

## 未来予測とは何か

---

未来とは、今・現在から見ている将来である。だが時は刻一刻と過ぎていく。

そんな未来と言えたい、明日、1週間後、1ヶ月後、1年後、10年後、などの単位になり思考することとなる。

また「予測する」と言うとき、次の、今後、次回、以降、次期、先、将来、後生、などという言葉が並ぶ。それが予測する方向となる。

予測とは、分析によって導かれた答えである。

ここでの分析対象は人である。

人の過去や現在の言動を分析して、その未来を予測しようというのだ。

それだけではなく、分析の正しさを証明したいのだ。それが一番肝心なことなのである。

未来予測の正しさは、過去の分析からの予測が、未来に起こった、ということを確認できれば証明できる。過去の予測が未来に起きることを、「予測が当たった」などと言う。

過去の分析からの予測が未来に起きたならば、それは予測の正しさを証明したことになる。

ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、過去の予測は「正しかった」と確認することができる。

ある人物の未来での現象が、その人物の過去の分析で説明できるのなら、それは「予測的な分析である」と言える。

過去の分析が、未来に起きた現象を説明できるなら、それは予測的な分析であると言える。

これは今・現在から見た未来での検証方法である。

ここで重要視していることは、

1. 過去や現在の人の言動を分析予測したことが、その人の将来・未来に何らかの現象として起こるか？
2. 過去や現在の人の言動を分析したことが、その人の将来・未来での現象をも説明できるか？

この2つである。

1. において、過去や現在の分析予測が、未来にも起こった、ことが確認できたなら、「分析予測は正しい」と言えるのである。

2. において、過去や現在の分析が、その人の未来での現象をも説明できたなら、「分析は予測的である」と言える。

この2つの事柄のどちらかが当てはまるなら、未来を予測できた、と言える。

予測が当たっている、という検証

**A.**対象である人物の言動を分析予測する→**B.**未来にAで予測したことが起こる→**C.**Aの予測がBの出来事によって当たっていることで、分析の正しさが確認できる。

過去の分析で未来を解明する

**D.**対象である人物の言動を分析する→**E.**未来に、Dの分析で説明できることが、その同一人物に起こる→**F.**Dの分析がEを説明できることから、それが予測的であると確認できる。

人物の言動が言葉で表されるものであるから、言葉の分析は有効であり、未来という指向性があるという性質上、予測的であると言えるのだ。

予測が外れていたり、過去の分析によって説明できなければ、分析中の思考過程が間違っているということだ。

予測が当たっていたり、過去の分析によって説明できるのならば、分析中の思考過程が正しかったのである。これは後に同じ人物での、将来・未来においての事象でも、同様の分析で説明できる可能性がある、というものなのだ。

このように正しい分析には、一貫した思考がなければならない。

正しい思考過程と予測的な分析が、法則的とも言える一貫した思考・分析手法なのである。

未来予測が当るのは、この一貫した思考・分析手法＝言葉の分析があるからなのである。

## 予測と検証の時間的観念

---

過去、現在、未来、とは時間の流れである。

今・現実から見てこの先、将来からずっとを『未来』と言う。

間違えやすいのは、今・現実から1秒過ぎても、今・現実であり、現在である。1秒後は過去である。

未来の『未』というのは、まだ時がこないことである。これは時間的なことだ。

つまり、『過去、現在、未来』とは、リアル・現実的な時間の流れではなく、観念的なものなのである。時間的な観念を3区分していることなのである。

リアル・現実的な時間の流れでは、未来はまだ来ていないもの、ないものだ。

リアル・現実的な時間の流れでは、今・現在が時間と共に存在しているだけだ。

未来予測と検証という行為は、リアル・現実的な時間の流れと、『過去、現在、未来』という観念が混じったものとなっている。

我々の課題は、実は未来という「時間が来てない」というだけではなく、様々な『未知』にあるのだ。知らないことを知ろうとしているのである。

問題の多くは未知にあると言える。原因を知らないことが問題となっている場合があるのだ。

現在から未来は、まさに未知であるのだが、現在の問題も解決できない未知な部分がある。そしてそれは過去にもあるものだ。

### 現在から未来

たいてい予測と言え、現在から未来という目標である。現在から未来を予測しようとしているのである。

### 過去から現在の未知

「分析する」という作業は、必ず過去や現在の情報を元に行っている。だがその目的が未来とは限らないのだ。

過去の分析から現在の未知を説明することもできるのである。

- ある人物の現在の現象を、同一人物の過去の分析で説明できるなら、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表している確度の高い分析と言える。

### 現在から過去の未知

現在を分析することで過去の未知を説明することもできる。

- ある人物の過去に起こった現象を、同一人物の現在を分析して説明できれば、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表している確度の高い分析と言える。



過去から現在（未来）

今・現在から見れば予測の検証とは、未来での検証である。しかし検証する時点では、それはもう未来ではない。

未来予測が当たったか、外れたかは、時が過ぎ未来が現在にならなければ分からない・検証のしようがないのだ。

未来予測を確認するとき、その時はもう現在となっているのだ。

- ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、予測が正しかったことが証明されたことになる。またそれは、過去の分析で未来に起きたことが説明できることである。分析・思考過程が正しかったことが確認されたと言える。
- ある人物の未来での現象が、その人物の過去の分析で説明できるのなら、それは予測的な分析であると言える。その人物の特徴をよく表した確度の高い分析であると言える。

未来を目指して分析予測した結果、その検証段階においてはすでに未来ではなく今・現在となっている。それで検証できるのである。

未来予測の正しさを検証するために、長い期間を待った結果なのである。検証する時は、未来ではなく、今・現在で確認しているのだ。

このようなことを「言語分析未来予測」というブログで、人の分析をしては、その検証をする、ということをおこなってきたのです。

[言語分析未来予測 goo](#)

[言語分析未来予測 ウェブリブログ](#)

今・現在、報道された政治や芸能人たちの言動を分析予測しては、未来に予測が当たっていないかを待ち続け、実際に検証をおこなってきました。過去の分析予測と、未来での言動が一致したとき《それを現在で確認できたとき》、または過去の分析で説明できたとき、その思考はひじょうに予測的であり、かつ一貫している、と確信できるのです。

単に自分で納得するよりは、誰もが知っている有名人を分析することで、多くの人と検証できる客観性が得られるのです。

分析が客観的にも正しいことを証明するために。

## 未来予測は誰にでもできる

---

3ページに渡って説明してきたが、回りくどいように感じた人もいるだろう。

しかしこれは重要なことで、未来予測のルールを説明したかったのだ。

未来を予測するとき、また未知の、よく分からないものを説明するとき、いかに過去の分析が重要になるか、そのような一貫した思考が必要になるかを表わしたかったのです。

単なる偶然で予測ができたとか、当たった、解明した、ということではない、もっと確信的な分析が必要だなのです。

自分自身の頭脳に自信のある人なら、誰でも未来予測をしたがるものです。

アナリスト:専門家や、学者たちは、こぞって未来予測に挑み、ほとんど敗れている。たいていは自分の言ったことや書いた物の検証などしないし、たまに当たっている物にリンクを張ることもあるが、それは珍しいことだ。

これを読んで、自信がある人がいるなら、このようなルールで未来予測をし、検証されてはどうだろう。

何年も人物の分析予測を繰り返し、また同一人物を何年も検証し続けられたなら、どれくらい対象である人物の特徴を表せたか、正しい分析ができたか、一貫した思考でいられたか、が分かるはずだ。また、それがとても難しい、ということも。

それでは、実際の言葉の分析で未来予測の検証を見ることにしましょう。

自民党の総裁選での演説とは、政治家としてこれまでにない真剣な場である。大きな派閥の後押しがあったとしても、そこで語られる言葉は、今後にも影響するほどのものだ。

「信頼回復はマジックではございません。手品ではございません。すぐにできる問題ではありません」

70歳も過ぎた人間だけに急いで仕事することが現実にはできない、という事情があるのだが、それを長年の政治不信のせいにはしている、と分析できる。

以前は記者との関係が悪く、特定の局を断わっているほどで、苛立ちを隠さないところや、頑固な一面も見せていたのだが、首相になってからは、笑顔を作って、苛立ちや頑固さを隠し、さらに緊張を緩和させたい、という気持ちも透けて見える。また、閣僚経験が官房長官だけでは、首相になるほどの自信も疑われるのである。

もう少し個人的に分析するとこうなる。

他者とは、自分の理解を求めるような、かなり利己的な関係である。それで人間関係に違和感を感じやすく、それが苛立ちへと繋がっている。しかし本人はその苛立ちだけを欠点と自覚しているので、総裁選中も、首相となった現在も、良いイメージを優先させるために、インタビューでは無理に笑顔を作ってしまうというわけだ。

これは下のリンクをまとめたものだ。

### [福田首相の分析 2007年09月29日 14時53分40秒 | 分析](#)

人は40歳を過ぎれば、「不惑」とも呼ばれる。この惑わない年齢とは、個人が社会の中でアイデンティティーを確立し、その立場と信念において揺るぎない人格を確立した、ということを表わしている。もちろん個人差はあるだろうが、年齢を重ねるほど、その人格や個性は変わりにくいものとなる。

そんな40歳過ぎた人たちは、多くの場面で下の年代よりも、より個性的に対応しようとする。また、そのように対応できる立場ともなっている。年齢を重ねるほど、そんな傾向は強くなる。だからこそ政治家個人の分析予測は当りやすくなる。正確に分析ができればの話だ。

先の分析が、未来にも同様の言動として起こるか、を検証するのである。

1. 過去や現在の人の言動を分析予測したことが、その人の将来・未来に何らかの現象として起こるか？

1. において、過去や現在の分析予測が、未来にも起こった、ことが確認できたなら、「分析予測は正しい」と言えるのである。

“70歳も過ぎた人間だけに急いで仕事することが現実にできない”ということが、その人物の将来・未来にも起こるのか？

首相「公約、さっと思えばなかった」 年金記録問題 asahi.com 2007年12月13日15時52分

福田首相は13日の参院外交防衛委員会で、「宙に浮いた年金記録」の照合作業の遅れは自民党が7月の参院選で掲げた公約に違反していないと発言したことについて、「正直申しまして公約で（年金記録問題を）どう言っていたのか、ちょっと頭にさっと思えばなかったからそう言った」と釈明した。

70歳も過ぎた人間の事情そのものである。それが「頭にさっと思えばなかった」という言葉に表れている。しかもこの程度の説明で、理解を求めようとしているのなら、これもかなり利己的と言わざるをえない。

そして中国の輸入冷凍商品から毒物が検出された事件に関して、福田首相がより親中派としての対応が目立つとき、彼の新たな性質が発見されるのである。

問題を避けてしまう回避的性質、である。これが加わったことで、派閥での後押しで総裁に付いた福田氏が、より周囲からの批判や拒絶を気にしている事が分かるのである。その安心できない、リラックスできない緊張感は、閣僚内部からの批判には耐えられないのではないかという不安となるのだ。

特に、この「閣僚内部からの批判には耐えられないのではないかという不安」は、過去から現在の未知について検証が可能だ。過去の分析から現在の未知を説明することもできるのである。

“人間関係に違和感を感じやすく、それが苛立ちへと繋がっている”性質では、閣僚と確固な関係を築けるはずもなく、“閣僚経験が官房長官だけでは、首相になるほどの自信も疑われる”予測が確かなら、そんな自信のなさから「閣僚内部からの批判には耐えられないのではないかという不安」は、より現実のものとなる。

■ある人物の現在の現象を、同一人物の過去の分析で説明できるなら、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表している確度の高い分析と言える。

また、このように新しく、「問題を避けてしまう回避的性質」や、「閣僚内部からの批判には

耐えられないのではないかという不安」ということが分析から予測すると、逆の検証も可能はずだ。現在から過去の未知への検証である。現在を分析することで過去の未知を説明することもできる。

福田首相、昨年の総裁選秘話を披露...安倍氏との会話も 2007年9月28日22時57分 読売新聞

首相は昨年7月、総裁選への不出馬を表明し、その際は高齢を理由に挙げていた。

安倍総裁誕生も圧倒的な派閥の結集があったことを思い出す。

親子三代での付き合いがあるという二人の関係から、総裁選で多少なりとも遺恨を残さないという配慮があったというのではなく、実は派閥の圧力に敏感であるために、問題を避けてしまう回避的性質が働いたためだ。これほど、より周囲からの批判や拒絶を気にしているのが福田氏であり、それが次期首相としての「閣僚内部からの批判には耐えられないのではないかという不安」へと至っているのである。

前総裁線での高齢を理由の不出馬は、福田氏にとっては苦しい言い訳であった。

■ある人物の過去に起こった現象を、同一人物の現在を分析して説明できれば、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表していると言える。

ここで分析予測する要素が増えたので整理する。

その人物の将来・未来にも起こりうる可能性のある分析予測要素である。

70歳も過ぎた人間だけに急いで仕事することが現実にはできない。

他者とは、自分の理解を求めるような、かなり利己的な関係。

人間関係に違和感を感じやすく、それが苛立ちへと繋がっている。

問題を避けてしまう回避的性質。

閣僚内部からの批判には耐えられないのではないかという不安。

内閣支持続落、32.5%＝不支持が4割超ー時事世論調査 2008年2月15日（金）15:31

<中川元幹事長>小泉構造改革の後退けん制 首相直談判で 2月15日2時33分配信 毎日新聞

<空港会社外資規制>首相官邸が立ち往生 閣内不一致で 2月7日23時45分配信 毎日新聞

「空港整備法改正案を巡る閣内不一致」という不協和音は、福田首相の“周囲からの批判を気にしている”という回避的な性質を大いに刺激した。このように閣僚内部からの批判には耐えられないのである。その結果、町村信孝官房長官は「渡辺氏ら3閣僚にかん口令」を敷くこととなる。

最大派閥がかん口令を敷くほど、「閣僚内部からの批判には耐えられない」のが福田首相だった。

また、ガソリンの暫定税率に関しては、その期限が過ぎ失効してしまうという不手際を見せて

しまうほどで、70歳も過ぎた人間だけに急いで仕事することが現実にできない、という分析がひじょうに予測的であった。

内閣改造から二週間も経たない内に閣僚の事務諸費問題が持ち上がる。

人間関係に違和感を感じやすく、それが苛立ちへと繋がっている首相は、もはや笑顔ではごまかしきれず、首相在任1年目にして辞任表明をしたのだ。そのときの最後の言葉がこれだ。

「他人事のようにとあなたはおっしゃったですけどね、私は自分自身を客観的に見ることができんです。あなたとは違うんです」

これも記者の質問の際に感じた違和感が苛立ちとなった結果なのである。

■ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、予測が正しかったことが証明されたことになる。またそれは、過去の分析で未来に起きたことが説明できることである。分析・思考過程が正しかったことが確認されたと言える。

参考

[過去の分析予測、福田首相.1 << 作成日時 : 2009/10/23 03:15 >>](#)

[過去の分析予測、福田首相.2 << 作成日時 : 2009/10/24 05:43 >>](#)

[過去の分析予測、福田首相.3 << 作成日時 : 2009/10/25 05:31 >>](#)

この頃から大手ニュースメディアの世論調査が、まるで民意を誘導しているのではないかと、と思われるほどのものとなっていく。

内閣支持41%に好転、「麻生幹事長」評価66%...読売調査 2008年8月3日(日) 03:01  
内閣支持横ばい24% 麻生幹事長高評価 本社世論調査 2008年8月3日3時1分

このときは、まだ福田政権であった。

内閣支持率は読売と朝日で大きな違いがあるのに、麻生幹事長だけが高評価なのだと言う。読売66%、朝日51%。とても信じられない報道だ。

自民・麻生幹事長の「ナチス」発言、民主党が強く反発 2008年8月4日(月) 23:32

麻生氏には元々、失言癖があった。

福田首相退陣、後継総裁選に麻生氏出馬へ(2008年9月2日03時08分 読売新聞)

記者会見に先立ち、首相は1日夕、首相官邸に自民党の麻生幹事長を呼び、約1時間にわたって会談した。会談には、途中から町村官房長官も加わった。首相は、席上、麻生、町村両氏に辞意を伝えた。

このときの麻生氏との会談が、後に禅譲であったのではないかという憶測を呼ぶ。その後、幹事長であった麻生氏が総裁選へ立候補することとなるのだ。

幹事長とは、党総裁を補佐する役目であり、首相辞任で内閣総辞職の責任もあるはずが、総裁選に立候補してしまう。世論調査での高評価の影響もあったろう。

また幹事長とは、立候補者に対する公認権を持ち、党財政も管理しているため、選挙が間近であるのなら、なおさら自民党議員たちは誰も批判しにくくなる。これほど幹事長が総裁や首相になるとは、その要職を利用した権力的なことなのである。だからこそ自民党の歴史でも、幹事長が総裁となるのは、ひじょうに特異な理由での3度だけだったのだ。

ここから予測できることは、この影響で、いつか党内に深い傷を残すことになる、ということなのである。

当時、自民党のホームページでは、それぞれの総裁選立候補者のページがあった。

麻生氏のページでは、「強くて明るい日本をつくる」という題が付けられていた。そこには、『「不安」の反対語は「安心」ではありません。「希望」です。不安の深まる今は、むしろ好機です』と書かれていた。

実はこれは、麻生氏本人には気付かない間違いであった。

正しくは、「不安」の反対語は、「平気」。「希望」の反対語は、「悲観」である。

また、日本の底力の最後に「大きな金融資産」と書いてあるが、17年連続の世界最大の債権国家や、国際復興開発銀行などの出資は、国際的な公約のようなものであって、すぐさま債権を取り立てたり、資金を引き揚げたりできるものではない。

これから分析できることは、認識の誤り、楽観、情報や言葉の使用が自分の都合のいいように解釈されている、などである。

他には、自信過剰、気分が変わりやすいという性質、国民からの自民党批判は軽視、などである。

これらから、以下のような予測が成り立つ。

幹事長が総裁になるとは異常で不健全。党分裂の原因そのものになってしまう。自民党の今後は、多難。

思い違いや錯覚が多いので、国民の本音や、浮動票の行方を見誤りかねない。

これらの現在的な分析が、未来にも同様の言動として起こるか、を検証するのである。

1. 過去や現在の人の言動を分析予測したことが、その人の将来・未来に何らかの現象として起こるか？
1. において、過去や現在の分析予測が、未来にも起こった、ことが確認できたなら、「分析予測は正しい」と言えるのである。

中山国交相が辞任へ 問題発言に批判、麻生新政権に打撃(朝日新聞)2008年9月27日22時55分

楽観的な人事である。閣僚人事では文教族などのあまりにも身近な人間を登用していたのである。

「社会常識欠けた医者多い」=麻生首相が発言、すぐに陳謝(時事通信)2008年11月19日(水) 18:30

【FNN合同世論調査】内閣支持率急落、27・5% 「首相にふさわしい」も小沢氏に軍配(1/2ページ) - MSN産経ニュース 2008.12.1 12:01

3ヶ月も経たないうちに支持率が急落。全てが自信過剰の現われなのだ。失言は後で謝罪することなど想定してないほどの楽観で語られている。

郵政民営化「国民は内容知らなかった」=05年衆院選振り返り麻生首相 2009年2月10日18時18分配信 時事通信



過去の衆院選の争点なのに、国民は知らなかったはずはない。自民が3分の2を利用して法案を再可決できるのも、郵政選挙があったからこそなのに、まさに認識の誤りがここにある。小泉氏を軽んじているのは、自信過剰の何ものでもない。

### 2009年02月15日麻生内閣支持率9.7%...日本テレビ世論調査

麻生氏の自民党総裁選を振り返れば、「1年以内に行われるであろう衆議院の総選挙において、確実に我々は戦わなければいけない。誰が民主党と戦うのかが、一番の肝心な点だと」との演説にあるように、全ては衆院選での勝利のためだった。そのために「麻生幹事長」評価66%という人気がある段階で、解散総選挙となるはずが、「景気優先」で引き延ばされ続けてきたのである。

もやは、楽観や自信過剰を超えて、国民からの自民党批判を軽視しすぎている、という予測が当たっているのだ。

民主党が圧勝、新政権で国家戦略局担当相と財務相を重視 | マネーニュース | Reuters  
2009年 08月 31日 02:20 JST

敗因を「国民の不満に対応できない自民党政治」としているが、これは明らかに麻生氏の責任である。国民からの自民党批判を軽視したことと、思い違いや錯覚が多いので、国民の本音や、浮動票の行方を見誤りかねない、ことで説明が付く。

日本の舛添氏、自民党を離党するぞと 2010年3月3日(フィナンシャル・タイムズ)  
自民・与謝野氏「民主に代わる選択肢考える」新党に含み(朝日新聞) 2010年3月7日19時23分

渡辺喜美議員が自民党を離党したのは、麻生政権の時だ。後にみんなの党を作り、保守第三極の勢力を作り上げた。

それからだいぶ遅れて、舛添氏、与謝野、平沼、中山成彬らが次々と離党し、新党を立ち上げた。

自民が分裂した、とまでにはいかないが、党内に深い傷となったのは事実だ。

■ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、予測が正しかったことが証明されたことになる。またそれは、過去の分析で未来に起きたことが説明できることである。分析・思考過程が正しかったことが確認されたと言える。

またここで前に戻って、分析予測が、過去の失言癖を説明できるか？ を考えるなら、現在から過去の未知で説明できなければならない。現在を分析することで過去の未知を説明することもできる。

度々の失言が癖になったように繰り返されるのは、認識の誤りに加えて楽観が、自分の発言がどのような影響となるのかを軽視しているためだ。まるで自分の発言がユーモアであるかのような思い違いや錯覚を起こしていることが、結果的に国民からの自民党批判は軽視しているように見えてしまうのである。

■ある人物の過去に起こった現象を、同一人物の現在を分析して説明できれば、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表している確度の高い分析と言える。

このように回りくどく説明しているのは、言葉の分析がいかに一貫した思考であるかをも検証するためである。本来の分析予測であれば、これほどは書かない。

#### 参考

[分析予測【検証】、麻生首相誕生 << 作成日時：2010/03/11 06:53 >>](#)

[分析予測【検証】、麻生首相と政権のその後 << 作成日時：2010/03/12 03:43 >>](#)

[分析予測【検証】、麻生首相と自民与党の終焉 << 作成日時：2010/03/13 09:06 >>](#)

これは2006～2007年の年末年始、「心理分析ドキュメント ラポールの旅：テレビ東京」の番組での精神科医、名越康文氏の独自のカウンセリングを、言葉の分析で検証したものです。結果は精神科医の分析とは違ったものになった。

カウンセリングで彼女が話した要旨は以下の通り。

彼女は自分のことを極度の寂しがり屋だと言う。1人で自宅にいるとドキドキするほどだ。モデルの業界に入ったのが芸能界の切っ掛けであり、良い先輩や同期の人たちに出会えたからやってこれたと言っている。

仕事が上手くいっているのは、周りの人たちが道を開いてくれて、自分がそこに乗っただけ、頑張ったらこのようになる予定だと言われてやってきた、と言っている。

演じやすかった芝居は、夫を待つだけの妻の役。

私の分析は以下の通り。

部屋に戻っても何もやることがない不安とは、実に曖昧で無目的な意味である。

また、彼女が自分で言っている「寂しがり屋」とは、ひとりぼっちが嫌いだ、ということだ。彼女が「部屋に戻っても何もやることがない」と語っている不安は実に特徴的だ。

これらのことを言語分析してみると、彼女の寂しさとは“わびしさ”であることが分る。これは非常に自己評価が低い意味と、頼りない心寂しさと、二つの意味が含まれている。

つまりこれらの寂しさとは、“放置されている”寂しさなのである。

彼女のように美しく、しかも言葉遣いも良く、頭がいいように見えるのに、内心では自分への疑い、上司のサポートがなければ何もできない、などの思いがある。まるでそれは“実に曖昧で無目的”な自己における不安であると分析できる。

田丸さんが最初に言っていた、「10分ぐらい何もすることがなくお家でいるとドキドキしてくるんですよ」という言葉が気にかかる。

しかし言語分析だと、これが過剰適応（精神科医の分析）と結びつかない。

まるでこれは失業中の人が人生設計をたてられないという将来への不安のようにしか分析できないのだ。自宅から逃避でもしたいような、その理由としての葛藤が、解決できない、程度のものにしか分析できない。

この点は念を入れて分析してみた。

無計画さや自分への甘さは、意志の弱さが原因であり、それが曖昧な物言いへとつながっている。ということで、意志の弱さが寂しがり屋の原因となっていることが分る。

自己評価が低く、忍耐力にも欠けている。つまり、部屋に戻っても何もやることがない不安、

とはまるで無職の人間の将来への不安のように分析できる（前の分析と同じ）。

これらの現在的な分析が、未来にも同様の言動として起こるか、を検証するのである。

1. 過去や現在の人の言動を分析予測したことが、その人の将来・未来に何らかの現象として起こるか？

1. において、過去や現在の分析予測が、未来にも起こった、ことが確認できたなら、「分析予測は正しい」と言えるのである。

2008年1月、さんま御殿「ゲストが全員女性SP」で田丸麻紀さんがゲスト出演した。最初の分析から1年後である。

さんまさんから「去年、結婚したかったの？」と聞かれると、「したかったんですよ。予定では、自分の人生のプランでは」とは言っているが、「だけど、まー、ぜんぜん予定もないんで。私、このまま、1人で部屋で死んでいくのかな、って思ったら、泣けてきて……」と言っていた。

自分では、「予定では」とか、「人生のプランでは」とは言っているが、現実はひじょうに曖昧であり、「ぜんぜん予定もないんで」と、実は無目的であることがよく分かる。そして次には「1人で部屋で死んで」などと自己における不安を語っていた。

ここでも、前に書いた通り、寂しがり屋の原因としての、意志の弱さ、が見て取れる。これで田丸さんの本質が1年前とさほど変わってないことが分かったのである。

予測としては、まさに未来でも「無計画さや自分への甘さは、意志の弱さが原因であり、それが曖昧な物言いへとつながっている」ということを繰り返していることが、当たっていると言えることである。

■ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、予測が正しかったことが証明されたことになる。またそれは、過去の分析で未来に起きたことが説明できることである。分析・思考過程が正しかったことが確認されたと言える。

このことは、現在から過去の未知で、現在を分析することで過去の未知を説明することもできるのである。

実に曖昧で無目的な自己における不安は、1年後の彼女の分析でも説明できる。

「私、このまま、1人で部屋で死んでいくのかな、って思ったら、泣けてきて」という言葉でも、冗談か悩みかも分からないほどのものであることが分かる。この曖昧さこそ、彼女の寂しさが悩みとも聞こえてこない原因であり、彼女の「不安」にしても、単に無目的であるや、意志の弱

さという程度にしか聞こえてこないのである。

■ある人物の過去に起こった現象を、同一人物の現在を分析して説明できれば、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表していると言える。

このように二つの事実と分析が検証できることが大切だ。比べても一貫性があることで分析の確度の高さが分かるのである。

参考

[田丸麻紀さん、精神科医名越氏の分析 2007年12月28日 15時08分57秒 | 分析](#)

[田丸麻紀さんの分析2007年 12月29日 07時07分41秒 | 分析](#)

これもまた「心理分析ドキュメント ラポールの旅：テレビ東京（2006～2007年）」の番組からのものだ。

内容は「商店街で1時間自由に楽しんで下さい」とのテーマで、それをビデオカメラが追っている、というもの。

「楽しめっ、て言われるとどう楽しんでいいか、ちょっとよく分らない」と言いながら歩くと、周囲のファンから声がかかり、それにいちいち丁寧に対応している。テレビよりきれい、と言われると「テレビの映り方も、ちょっと考えなきゃいけないな」と言いながら、「ありがとうございます」を繰り返している。

ウィンドショッピングをしながらも、番組のために独り言のようにレポートをしている。

100均ショップでも、レポートのような独り言で、商品を手にとっては、「ちょっと考えよう」とか、「いいけど……」などと言いながら、また棚に商品を戻したりを繰り返している。買ったのは、紙コップ、お年玉袋×2、お正月のスタンプ、合計420円。

私の分析は以下の通り。

大事なことは後でゆっくりと考えようという態度と、考えすぎて時間がかかるということに注目したが、「よくよく考える」という意味でこの二つは近い。

周りの人から声がかかったりするときも、自分に言われた言葉を繰り返して話のテンポを作る、その間に考えてから配慮のある言葉を相手に言っていた。

このように間を取ったり、時間をかけたりして、よく考えようとしている。才能もあるのだろうけど、真面目でビデオカメラを意識して、きちんとした仕事をしようとするところは勤勉でもある。

経験を積んでさらにうまくなり、賢く丹念で、計画的に継続させていくことができる。保守的ではないだろうか。

またお年玉袋を買ったと言うことは、後輩のために、であろうか。

そうだとしたら、面倒見のいい人でもある。周りから慕われるのは、ただ成功しただけではなく、相手の悩みも解決してあげようとするからだ。

多くの人達と協賛して、より発達し、大成するだろう。

注目するのは、彼女が最初に言っていた「楽しめっ、て言われるとどう楽しんでいいか、ちょっとよく分らない」とか、「テレビの映り方も、ちょっと考えなきゃいけないな」とか、「こういう店になかなか来れないんだよな」などという言葉である。

テレビタレントが台本や演出のある仕事場で、自由にやることこそ難しいと考えるのは当然だ。ただそこでそれが言葉で出る人と、出ない人に別れるだろう。青木さんは、それを言葉に出す人である。

また通りがかりの婦人たちに「テレビ（で見る）よりきれい」と言われて、「ありがとうございます

います」というのは一般的な応答だが、その前に「テレビの映り方も、ちょっと考えなきゃいけないな」と言ってしまうのは彼女らしさではないか。お笑いを意識していないのなら、彼女の個性なのかもしれない。

またダイエット商品を見つけて「こういう店になかなか来れないんだよな」と言うのは、自己管理に関してのことであり、こういう店に来て情報でもいいから仕入れなければいけない、とも思っているのではないだろうか。

これらのことは単なる彼女の独り言ではないだろう。

この3つの事柄から考えられるのは「愚痴っぽい」ということである。しかも彼女は年末（去年の番組）までも仕事に追われ、行きたいところも行けないのだ。

もしも彼女が日常でもこのように「愚痴っぽい」のであれば、以下の分析も有効ではないかと考えた。

分析してみると意外にも“ナルシスト”という言葉が浮かび上がった。

これは、周囲の人達から「かわいい」とか、「きれい」とか言われると、その言葉を自分でも繰り返してから「ありがとうございます」と言っていた対応に添うものである。

だがここで意外にも前の田丸麻紀さんより、青木さやかさんの方が過剰適応傾向が強いことが分かったのだ。

青木さんはダイエット商品を手にとっていたところからも、体重をコントロールしようという自己管理を心掛けている。しかしそれはお笑い芸人にとって必要なことだろうか？ ここにも青木さんのナルシストぶりは見て取れるのだが、それでも「こういう店になかなか来れないんだよな」と言わせるほどなのである。

「こういう店に来たい」だが、「来られない」のだ。

それは仕事が立て込んで暇がないからである。

自己のナルシズムを満足させたいのに、それよりも優先しなければならないものとは、仕事としてのテレビ出演なのである。それも行きたいところに行けないほどの忙しさである。

だがここで注意しなければならないことは、彼女が無理に仕事をこなしているのではなくて、もっと別の意味でのこと、“視聴者からよく見られたいと思って、他人の視線をいつも気にしてしまっ行って行動してしまう”という点なのである。これこそ“ナルシスト”とも共通する点である。

ナルシストとは“自己を優先する”ものだろうが、なぜこのように自分がしたいこともままならないぐらい仕事に忙殺されても、そんな日常が続けられるのか？ それは、他人から愛情を得るために嫌なことでも自ら進んでやってしまう、という性質によるものなのである。

仕事ではプロデューサーに頼りにされたい、視聴者から愛されたい、という思いが強いために、それで彼女は無理をして仕事に挑んでいるのである。

異性関係では、惚れっぽいが、飽きやすく、それでいて嫉妬深く、相手の浮気などを疑ってしまうことがあると予測できる。

参考

[青木さやかさん、精神科医名越氏の分析 2007年12月29日 10時59分17秒 | 分析](#)

[青木さやかさんの分析 2007年12月30日 08時10分11秒 | 分析](#)

青木さやかさんの映像は他に2つあった。それらを全部見て言えることは次のようなことである。

それにしても青木さんは真面目で賢い女性だった。最後まで仕事に集中して、精神科医の名越氏の言葉で番組を成立させようと努力していた。名越氏の分析による「所在のない」というよりは、私は「如才ない」人であったと分析する。

この「如才のない人」という分析が後からのものなので、前の「ナルシスト」と矛盾するのではないか、という疑問があるかもしれない。

そこで、もう一度、過去から現在の未知、過去の分析から現在の未知を説明することを考える。

如才のない人とは、手落ちや手抜かりがない人のことだ。

間を取ったり、時間をかけたりして、よく考えようとしている、真面目で勤勉な人は、手落ちや手抜かりがないのは分かりやすい説明だ。

しかし「自己を優先するナルシスト」が、どうして「如才がない」というほどになれるのか？ それは、周囲の人達から「かわいい」とか、「きれい」とか言われると、その言葉を自分でも繰り返してから「ありがとうございます」と言っていたほどのナルシストだからこそ、そんな人気を保つためにテレビ出演が大切になるのである。それは自分がしたいこともままならないぐらい過剰に打ち込んでしまうほどであるから、手落ちや手抜かりがないほどに見えるのである。

■ある人物の現在の現象を、同一人物の過去の分析で説明できるなら、それも予測的な分析である。その人物の特徴をよく表している確度の高い分析と言える。

参考

[青木さやかさん、精神科医名越氏の分析2 2008年01月01日 03時29分35秒 | 分析](#)

[青木さやかさんの分析2 2008年01月01日 06時38分47秒 | 分析](#)

[青木さやかさん、精神科医名越氏の分析3 2008年01月03日 10時28分30秒 | 分析](#)

[青木さやかさんの分析3 2008年01月04日 06時15分46秒 | 分析](#)



これらの現在的な分析が、未来にも同様の言動として起こるか、を検証するのである。  
真面目さや勤勉さが将来・未来においても見られるのか？  
または惚れっぽい性格が表れるのか？

1. 過去や現在の人の言動を分析予測したことが、その人の将来・未来に何らかの現象として起こるか？
1. において、過去や現在の分析予測が、未来にも起こった、ことが確認できたなら、「分析予測は正しい」と言えるのである。

その後、青木さやかさんは結婚をした。

日本の人気タレント・青木さやかさん結婚- ウィキニュース【2007年10月24日】

中日スポーツによると、タレント・青木さやかさん（34歳）が10月22日、自らの所属事務所を通して3つ年下・31歳のダンサーの男性と結婚すると発表した。

デイリースポーツによると、青木さんと男性は半年前に前田健さんらの同席した食事会で知り合い、結婚を意識した交際を開始。プロポーズもこの直後にあったといわれる。その後交際からわずか1ヵ月半で「結婚します」と事務所に報告したという。

交際からわずか1ヵ月半で結婚とは、「異性関係では、惚れっぽい」が当たっているが、まだ離婚の報道は聞かれない。

青木さやか、「笑っていいとも！」で妊娠報告(07/30 12:09)

「本当は安定期に入ったらご報告しようと思っていたんですけど、ちょっと早めですけど、『おめでとう』といってもらえるのは嬉しい。仕事も体も大事にしながら頑張っていきたい」

青木さやか「いいとも！」で第1子妊娠報告 7月31日7時52分配信 サンケイスポーツ

司会のタモリ（63）や笑福亭鶴瓶（57）から「おめでとう」と祝福されると、「安定期になったら報告しようと思っていたのですが…」と恐縮。「祝ってもらってありがたいです。仕事も大切にします！ 何でもやります！！」

「安定期に入ったらご報告しようと思っていた」という慎重さは、間を取ったり、時間をかけたりして、よく考えようとしていることである。仕事のことも気にしているのは、真面目で勤勉であるからだ。仕事もプライベートも如才なく、またそつがない、彼女らしさだ。

■ある人物の過去の分析予測が、未来に起きたならば、予測が正しかったことが証明されたことになる。またそれは、過去の分析で未来に起きたことが説明できることである。分析・思考過程が

正しかったことが確認されたと言える。

最近の青木さやかさんは、6月に仕事復帰していたようで、それまでは子育てをしていたようだ。

あれだけ仕事に打ち込んでいた人気タレントが、仕事を休んでいたのだ。彼女のブログにはこう書かれている。

[青木さやかたまに書いてます](#)

[青木さやかオフィシャルブログ](#)

[2010-03-18](#)

[ありがとうございます](#)

[生活は一変しました](#)

[新鮮で、大変です](#)

[すぐに仕事復帰するんでしょう？](#)

[と聞かれますが、](#)

[この生活を大切にし、子育てを1番に考えながら、](#)

[その上で時間がかかるかもしれませんが、](#)

[お仕事に復帰できたらと私は思っています](#)

ナルシストとは“自己を優先する”と書いたが、彼女は仕事よりも自分の子供を育てることを優先したようだ。子育ても自分自身の事情と言えるものだ。

[青木さやかたまに書いてます](#)

[青木さやかオフィシャルブログ](#)

[2010-06-14](#)

[2010年6月14日](#)

[名古屋から帰っております](#)

[赤ちゃんと二人](#)

[お腹いっぱいになってようやく寝てくれたと思ったら](#)

[もうすぐ新横浜！！！！](#)

[ふ~~~~](#)

[初めての新幹線](#)

[ぐったりです~](#)

自分がしたいこともままならないぐらい、今度は育児に忙殺されているようです。

しかし彼女は過剰適応傾向が強いので、育児と仕事で疲れ果ててしまうのではないかと心配である。

## なぜ予測できるのか？

---

人の過去や現在の言動を分析すると、なぜ将来・未来までも予測できるのか？

人は言語で考えている。考えたことが言葉や行動になって現れるのである。それも言葉で表わされる範囲内である。

そして分析するのも言葉である。言動を言葉で分析することで、予測的な文章となる。言葉には未来という指向性があるからだ。これは「言葉の分析とは何か」で書いた。

さらに人は、生きた年齢だけの個性が備わることとなる。そして養育環境や社会的な影響、経験から人格が確立される。

そんな人は周囲からの刺激に、自分の個性や人格などからの考えや判断で対応しているのだ。そのようにいつも繰り返しているのだ。

それが良い経験でも、悪い経験でも、自分の個性や人格などからの考えや判断での対応を繰り返しているにすぎない。だから得手不得手がある。

過去や現在の言動から、その人の特徴や個性、人格などを正しく分析できれば、将来・未来の言動も予測できるのである。人は周囲からの刺激に、自分の個性や人格などからの考えや判断での対応を繰り返しているのだから。

もちろん、1人の判断で対応しているだけではない。様々な人間関係の力学的な影響もある。しかしそれら全ての影響も、まとめて個人の言葉となって、個性的に発せられたり、行動となったりするのだ。

時には自信となったり、時には逆に不満や苛立ちとなったりする。そんな言動を分析するのは、何よりも言葉が有効である、ということなのだ。

## あとがき

---

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。

まずは自己紹介がてらの文章からです。「未来予測」同様に無料にしました。いかがでしたでしょうか？

今回の「未来は予測できる」では、未来予測を説明するために、ひじょうに面倒くさい書き方をしました。回りくどいし、後戻りして同じことを繰り返したりしています。過去と現在の分析を書いて、次に未来の事実を書いて、また時間を戻して、というような書き方で説明しています。読んでいる方々も混乱したのではないかと思います。ここでは、一貫した思考である、ということだけ確認していただければいいのです。

本来の分析予測では、こんなに回りくどくは書きませんので、もっと分かりやすく読めると思っています。

「言語分析未来予測」とは、今まで書いてきたブログの題名で、言葉の分析で未来を予測する、という意味です。

[言語分析未来予測 goo](#)

[言語分析未来予測 ウェブリブログ](#)

ブログで分析と検証を続けた結果、言葉の分析と未来予測の有効性を確信しました。

あなたが未来予測をできるとしたら、なにを分析しますか？

きっと私と同じことをするでしょう。

多くの人の課題や問題などを分析し出すでしょう。あなたもきっと、そうするはずです。

Ameba（アメーバ）ブログでは、人の悩みや、人間関係、恋愛関係の分析だけを書いております。ですが、ここでは言語思考という程度で留めております。本格的な言葉の分析の前段階なのです。

[言語分析未来予測 Ameba](#)

ここで書いたものを元にして、パブーで100円有料電子出版を予定しています。

今さら聞けない恋愛、上手な付き合い方、上手な甘え方、よりを戻す方法、答えのない悩み、などを経験談でない、言葉の分析として、読みやすい1話完結のノンフィクションとして出版します。

パブーの良いところは、設定が自由なところです。

今までの本だと、たとえば、自分の悩みの解決の20ページのために、他の250ページ以上も買わなければならないところでした。

しかしこの電子本だと、1話だけ20ページの悩みの分析でも書けるので、ピンポイントであるため、時間のロスも、無駄なお金も使わなくてすむのです。

もし、この分析が役に立つものなら、100円で悩みの解消や、恋愛が上達したりする方法を知ることができるのです。

何千、何万円も出して、占い師の所へ行くことはもうありません。

まずは、無料の「未来予測」や、「未来は予測できる」から読んでいただきたい。

それで、確かなものとは何かを考えてほしいのです。

そして、確かに未来が予測できることを知ってほしいのです。

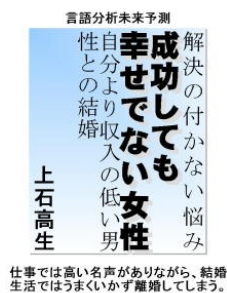
それから私は、100円で、あなたが知りたかったことを書きます。

他の電子書籍もご案内します



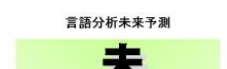
占いや予言だけでなく、経済や医療も、景気や患者の未来を予測している。

未来予測 無料 未来予測は重要な分野で様々に試されている。環境や経済の分野では特に、である。医療は病気の分析から、治療の効果を予測し、患者に薬を処方してその効果を予測している。しかしテレビメディアでの今まで未来予測は、占いや予言でしかなかった。様々に占い師や予言者たちは語ってきたが、あれほど多くあった占い番組や霊能力番組は今は見る影もないほどだ。多くの人が未来を予測することに大いに失望したのではないか。もう一度、未来予測を現実的に考えてみなければならない。



仕事では高い名声がありながら、結婚生活ではうまくいかず離婚してしまう。

解決の付かない悩み 成功しても幸せでない女性 自分より収入の低い男性との結婚 有料100円（税込） どんなに成功したとしても、彼女は個人的な幸せをつかんではいなかった。社会で苦労して名声を得たとしても、夫婦間のトラブルは解決できなかったのである。



# 未来予測

2010年10月1日～31日

上石高

政治、海外、事件、芸能などのジャンルで、ほぼ毎日、一ヶ月間、更新します。

未来予測 2010年10月1日～31日 有料100円（税込）これが実際の分析による予測である。ジャンルは、政治、海外、事件、芸能など、社会的に反響の大きいものは必ず取り上げます。この企画が、何年も続き、読者の皆様から、信頼される分析予測となることを願って書き続けます。

言語分析未来予測

# 未来予測

2010年11月1日～30日

上石高

政治、海外、事件、芸能などのジャンルで、ほぼ毎日、一ヶ月間、更新します。

未来予測 2010年11月1日～30日 有料100円（税込）内容は、政治、海外、事件、芸能、の分析予測。全体的には15記事程度を更新する予定。最初は「民主党、仙谷由人官房長官の分析」からです。